様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　23　年　6　月　9　日現在

機関番号：３２６７０
研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：2008～2010
課題番号：２０３２００９５
研究課題名（和文）　第二次世界大戦期の日本及び枢軸国の対中東・イスラーム政策の比較研究
研究課題名（英文）　A Comparative Study on the Axis and the Japanese Policies toward the Middle East and Islam during World War II
研究代表者
臼杵　陽（USUKI AKIRA）
日本女子大学・文学部・教授
研究者番号：４０２０３５２５

研究成果の概要（和文）：

本研究は、第二次世界大戦期に三国軍事同盟を締結した日独伊の枢軸国およびその関係国の対中東・イスラーム政策を比較することによって、日本の「猶太問題」と「回教・回教徒問題」への対応の特徴を浮かび上がらせた。同時に、独伊両国の枢軸国による北アフリカおよび中東地域のムスリムおよびユダヤ人への政策と日本のそれとの違いを念頭に置きつつ、ユダヤ人への対応の違いと中東地域とアジア地域のムスリムの相違、およびその問題点を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

This study clarifies the characteristics of Japanese policy toward “Jewish Question” and “Muslim Question” compared with that of the Axis such as German and Italy that allied with Japan by Tripartite Pact during World War II. At the same time, the differences of the Axis policies toward Muslims and Jews are made clear by explaining the different conditions under which Muslims and Jews lived in the Middle East and North Africa on the one hand and East Asia and Southeast Asia on the other.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
２００９年度	5,400,000	1,620,000	7,020,000
２０１０年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
年度			
年度			
総　計	13,100,000	3,930,000	17,030,000

研究分野：中東現代史
科研費の分科・細目：史学・史学一般
キーワード：第二次世界大戦、枢軸国、イスラーム、回教政策、大川周明、中東地域

１．研究開始当初の背景

本研究は、科学研究費補助金基盤研究（B）(1)「日本・中東イスラーム関係の再構築－中東イスラーム地域研究の新地平」（平成 14 年～16 年）および基盤研究(A)(1)「日本・イスラーム関係のデータベース構築－戦前期回教研究から中東イスラーム地域研究への展

開」(平成 17 年～19 年)を行なった上で、日本の戦時期の対ムスリム政策の特徴を、独伊などの枢軸国のそれとの比較の中で明らかにしたものである。というのも、枢軸側にとってムスリムの動員およびその支持取り付けは反共・対英戦略上、極めて重要な政治的な意味をもち、日独伊の共通の課題となったからである。

日本は満州事変以降、アジア主義的な潮流と相まって反共的な立場から「回教･回教徒問題」および「猶太問題」に関する戦略的な関心が増大した。とりわけ、日中戦争の勃発が契機となって日本の「回教･回教徒問題」に関する研究の組織化は急速に進展した。というのも、大東亜共栄圏建設におけるムスリムの動員の必要性という政治的動機、中国での国共合作に対応した日本の分断工作、あるいは中国西北部のムスリムを糾合した「第二満州国」の建設といった戦略的な課題に直面したからである。実際、そのような関心の方向性は、回教圏研究所、大日本回教協会、満鉄東亜経済調査局、東亜研究所といった調査研究機関が国策的要請を受けて「回教・回教徒問題」研究を組織化するというかたちで結晶化していった。

戦時期の「猶太問題」に関しては、戦前の日本では回教・回教徒問題と猶太問題がワンセットの問題として認識された事実がある。したがって、戦時期の日本のイスラームおよびユダヤ人政策を考えるに当たっては、むしろ両者を相互に関連するものとして把握しないと当時の政策決定者の政治的意図は正しく理解できない。実際に、1938 年には外務省を中心にして陸海軍省、参謀本部と共に「回教・猶太問題委員会」が設立された。この委員会の設立はロシア革命後のシベリア出兵以来、旧満洲（現中国東北部）に難民として流入していた旧ロシア帝国から逃れてきたトルコ系タタール人のムスリムやユダヤ人の亡命者の存在に対する日本政府の認識のあり方を示したものだった。したがって、タタール人ムスリムは、大東亜共栄圏の政治的スローガンがソ連に対する包囲網としての反共主義に基づく日本版の汎イスラーム主義あるいはトゥラン主義などの広域地域圏構想に結びつく結節点の役割を果たしたことは注目に値する。

２．研究の目的

本研究は、第二次世界大戦期あるいはアジア太平洋戦争期（以下、戦時期）に三国軍事同盟を締結した日独伊の枢軸国およびその関係国の対中東・イスラーム政策を各国のグローバルな戦略の中で比較することによって、日本のイスラーム政策の特徴を、ヨーロッパの枢軸国との差異の中で浮かび上がらせることを目的とした。とりわけ、日中戦争時における日本の「回教・回教徒問題」への対応を、日本の「猶太問題」にも関連させて、関係史資料の分析を通じて明らかにする。その際、独伊両国による北アフリカおよび中東・中央アジア地域のムスリムおよびユダヤ人への政策との違いを念頭に置きつつ、日本を含む枢軸国の中東・イスラーム政策のありようの特徴を比較の観点から浮かび上がらせて評価する。さらに、本研画は、本研究代表者が研究代表者としてこれまで行ってきた戦前・戦後の日本・イスラーム関係に関する研究成果を継承しつつ、戦時期日本の「回教・回教徒問題」を大川周明の東亜経済調査局を軸に再検討し、日本の「猶太問題」および独伊の枢軸国などのそれが中東あるいはムスリムにどのように認識されているかも明らかにすることを目的とする。

３．研究の方法

本研究は、戦時期日本の「回教・回教徒問題」および「猶太問題」への対策を独伊の枢軸国などのイスラームおよびユダヤ人対策との比較に重点を置きつつ、日本の中東イスラーム政策の特徴を浮かび上がらせることにある。したがって、本課題を研究する現地の研究者・専門家等との意見交換あるいは史資料収集のために、現地への派遣または現地から招聘を行なった。さらに研究成果を中間的に総括し、新たな発展的な課題発見を行なうために国際ワークショップをトルコ・イスタンブルで開催した。

戦時期の史資料の掘り起こしに関しては、日本国内のみならず、海外においても日本語資料の整理と文献目録の作成、公文書・戦時中の文書の公開、植民地資料の復刻出版が 1990 年代から盛んになっている。とりわけ、国立公文書館アジア歴史資料センターがインターネットで資料を公開して研究者の便宜を図っているが、それでも特定のテーマのために利用するには不十分である。したがって、まず同センターにて本研究に関連する閲覧可能な関係資料を系統的に整理・分析した上で、戦時期日本における「回教・回教徒問題」および「猶太問題」に関する研究状況を概観するとともに、それを踏まえて同様の方法で関係諸国のアーカイヴスにおいて枢軸側のイスラーム・ユダヤ政策の整理・分析を行なう。

さらに、すでに戦時期に刊行された回教関係の『回教圏』『回教事情』『回教世界』『新亜細亜』などの専門雑誌に所収されている論文等をより容易に利用できるように研究者への便宜を図る。また、枢軸側の対中東・イスラーム政策に関する研究情報がわが国では極端に不足しているので、まずは当該テー

マに関係するアーカイヴスでの史資料の所在の確認とともに、戦時期に枢軸国で発行された中東・イスラームに関する専門的な新聞・雑誌の調査をも早急に行なう。

その上で、日本と独伊などを比較するために史資料整理・分析を念頭に置きつつ実施する。また、関係各国の公文書館に所蔵される史資料の所在に関する調査・収集を行なうために分担者を派遣し、また当該テーマに関して議論のために専門家を海外から招聘する。

４．研究成果

第２年度にトルコ共和国イスタンブルのユルドゥズ工科大学で開催した国際会議の成果を踏まえて、第二次世界大戦中の枢軸国とトルコの関係、および枢軸側の中東地域、とりわけイラク・シリア・レバノン・エジプトなどのアラブ世界での活動を中心に整理を行ない、「第二次世界大戦中の枢軸側の対中東政策」として学術雑誌に論考を発表する予定である。

米英仏の後発国としての日独の第二次世界大戦までの国際政治への関与の仕方の比較研究の成果を刊行物として発表した。また、日伊の比較研究についても、文学作品を通してエチオピア戦争と日中戦争の比較に関する論考を発表した。日独比較研究として、田嶋信雄他著 Japan and Germany. Two Latecomers to the World Stage 1890-1945 を刊行した。さらに、ナチスとユダヤ人については長田浩章『われらユダヤ系ドイツ人―マイノリティから見たドイツ現代史 1893-1951』を出版した。

第二に、戦時期日本に関しては東亜経済調査局での大川周明の研究・教育活動と回教研究に焦点を当てて調査研究を実施し、大川周明の設立した東亜経済調査局付属研究所（通称・大川塾）の元塾生からの聞き取り調査も集中的に行なって、回教問題の一側面を明らかにした。その研究成果の一端は、前者に関しては、臼杵陽（研究代表者）著『大川周明―イスラームと天皇のはざまで』（青土社、2010 年）として出版した。後者の東亜経済調査局付属研究所に関しては、ＤＶＤ「大川周明　大川塾塾生の足跡」（ＫＭコンサルティング、2011 年）として刊行した。

第三に、日本・トルコ関係としては、三沢伸生監修『絆―トルコと日本の 120 年』を刊行し、またＣＤ版として、東洋大学アジア文化研究所から日土協会『日土協會會報』、東洋倶楽部『東洋』を刊行した。

第四に、戦前・戦時期のアジア主義についても、猶存社で大川周明と盟友であった満川亀太郎のアジア主義に関する調査研究を行ない、満川のユダヤ人観を含めて、戦略的動員対象としての回教徒（ムスリム）と猶太（ユダヤ）教徒への日本の対策を検討することが今後の課題として残った。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　44　件）

① 石田憲、イタリアのアフリカにおける植民地との比較から、「韓国併合」100 年を問う 2010 年国際シンポジウム（岩波書店）、査読無、2011 年 3 月、2011、252-262

② 臼杵陽、ヨルダン民主主義とパレスチナ解放の隘路―「アラブ民主主義」革命下のヨルダン王制、現代思想、査読無、39 巻 4 号、2011、188-193

③ 臼杵陽、竹内好のイスラム観―戦前と戦後のあいだで、戦後知の可能性―歴史・宗教・民衆（山川出版社）、査読無、2011 年 1 月、2011、97-132

④ 深澤安博、20 世紀スペインの植民地戦争と徴兵制―貧者には血税・富者には金の税、人文コミュニケーション学科論集、査読無、10 号、2011 年、77-11

⑤ 三沢伸生、戦間期のイスタンブルにおける日本の経済活動（５）、アジア文化研究所研究年報、査読無、45 号、2011、181-192

⑥ 三沢伸生、Shintonism and Islam in Interwar Japan、Orient、査読有、46 号、2011、119-139

⑦ 石田憲、Il problema dei crimini di guerra in Giappone e in Italia. Tre punti di vista comparati.、Memoria e rimozione: I crimini di guerra del Giappone e dell'Italia. （Roma: Viella)、査読無、2010 年 10 月、2010、19-31

⑧ 石田憲、文学から見た戦争―エチオピア戦争と日中戦争をめぐって、千葉大学法学論集、査読無、25 巻 1 号、2010、49-95

⑨ 臼杵陽、イスラムにおける「文明化の経験」と現代世界、安丸思想史への対論（ぺりかん社）、査読有、2010 年 3 月、2010、260-285

⑩ 田嶋信雄、ナチス・ドイツと中国国民政府　1933-1936 年（1)、成城法学、査読無、第 79 号、2010、45-74

⑪ 加藤博、Village Association in Cairo: A Study on Urban-Rural Relationship in Egypt、*Annals of Japan Association for Middle East Studies (AJAMES)*、査読有、no.26-1、2010、1-40

⑫ 田嶋信雄、中日戦争与日德中蘇关系、社会科学研究（四川省社会科学院）、査読無、2010 年第 2 期、2010、160-167

⑬ 店田廣文、日本におけるムスリムの子ども教育に関する調査、人間科学研究、査読無、23 巻 2 号、2010、249-255
⑭ 長澤栄治、第一世界大戦中のイギリスの秘密外交、歴史と地理　世界史の研究、査読無、225 巻、2010、47-49
⑮ 長澤栄治、岩崎えり奈著「変革期のエジプト」書評、アジア経済、査読有、第 51 巻第 2 号、2010、59-61
⑯ 長田浩彰、人種汚辱罪―第三帝国下のドイツ人とユダヤ人のカップルの悲劇的事例、西洋史学報、37 号、査読有、2010、173-193
⑰ 深澤安博、ジブラルタル海峡の向こう側－20 世紀スペインの政治・社会と植民地モロッコ、スペイン史学会会報、査読無、91 号、2010、21-25 ページ
⑱ 三沢伸生、戦間期のイスタンブルにおける日本の経済活動（４）、アジア文化研究所研究年報、査読無、43 号、2010、45-64
⑲ 石田憲、日伊両国における戦争犯罪―３つの歴史的比較の視座、南京事件７０周年―国際シンポジウムの記録（日本評論社）、査読無、2009 年 2 月、2009、200-211
⑳ 臼杵陽、「方法としてのディアスポラ」の可能性、ディアスポラから世界を読む（明石書店）、査読無、2009 年 9 月、2009、19-35
21 臼杵陽、イスラエルにおけるナショナリズム、ナショナリズム論・入門（有斐閣）、査読無、2009 年 8 月、2009、249-270
22 臼杵陽、大川周明のシオニズム論―道会雑誌『道』と『復興亜細亜の諸問題』初版本のテクスト比較、日本女子大学大学院文学研究科紀要、査読無、14 号、2009、73-93
23 加藤博、イスラムと文明化、比較文明、査読有、第 25 号、2009、39-54
24 田嶋信雄、孫中山与徳国、南京大学学報（哲学・人文科学・社会科学）、査読無、2009 年第 3 期、2009、75-91
25 田嶋信雄、日中戦争・第二次世界大戦と日独中ソ関係、外務省外交史料館報、査読無、第 23 号、2009、1-24
26 店田廣文、滞日ムスリムと日本のモスク調査、歴史と地理　世界史の研究、査読無、621 号、2009、57-61
27 長田浩影、ナチ体制下のある「ユダヤ人キリスト教徒」の手記(1937-1940)、ユダヤ・イスラエル研究、査読有、23 号、2009、35-43
28 深澤安博、スペイン領モロッコにおける「原住民」兵の徴募と動員、人文コミュニケーション学科論集、査読無、7 号、2009 、69-105
29 三沢伸生、戦間期のイスタンブルにおける日本の経済活動（３）、アジア文化研究所研究年報、査読無、44 号、2009、341-356
30 三沢伸生、メルトハン・デュンダル、イスタンブルの中村商店をめぐる人間関係の事例研究、東洋大学社会学部紀要、査読無、46 巻 2 号、2009、181-204、219-220
31 三沢伸生、メルトハン・デュンダル、イスタンブルの中村商店をめぐる人間関係の事例研究－徳富蘇峰に宛てられた山田寅次郎の書簡を中心に－、東洋大学社会学部紀要、査読無、46 巻 2 号、2009、181-220
32 三沢伸生、The Influence of the Ottoman Print Media in Japan、イスラーム世界研究、査読無、第 2 巻 2 号、2009、36-42
33 石田憲、同床異夢の枢軸形成―1937 年のイタリアを中心に、日独関係史 1890-1945 Ⅱ（東京大学出版会）、査読無、2008 年 2 月、2008、89-143
34 石田憲、Criminidi guerra in Giappone e in Italia: Un approccio comparato、Tra. da Marta Petricioli e Paola Redaelli, Italia contemporanea、査読無、251 巻、2008、251-260
35 臼杵陽、イスラエルの政教分離とユダヤ・アイデンティティ、ユダヤ人と国民国家（岩波書店）、査読無、2008 年 9 月、2008、23-40
36 臼杵陽、パレスチナ問題、イスラーム世界研究マニュアル（名古屋大学出版会）、査読無、2008 年 7 月、2008、326-332
37 臼杵陽、キリスト教と中東和平、イスラーム世界研究マニュアル（名古屋大学出版会）、査読無、2008 年 7 月、2008、414-417
38 臼杵陽、ファンダメンタリズムの現在―ユダヤ教：イスラエルを変える二つの宗教潮流、論座、査読無、158 号、2008、202-207
39 長澤栄治、Historical Contexts of Economic Reform in Egypt 、Mediterranean World、査読無、XVIII、2008、57-77
40 長澤栄治、ナショナリズム、イスラーム世界研究マニュアル（名古屋大学出版会）、査読無、2008 年 7 月、2008、218-225
41 長田浩影、ナチ政権とユダヤ・アイデンティティ、ユダヤ人と国民国家（岩波書店）、査読有、2008 年 9 月、2008、237-258

42　三沢伸生、ギョクヌル・アクチャダー、The first Japanese Language education in the Ottoman Empire (1891-92)、東洋大学社会学部紀要、査読無、46 巻 1 号、2008、219-248
43　三沢伸生、イスタンブルの日本商店、環(別冊)、査読無、14 号、2008、164-173
44　三沢伸生、日本・トルコ関係小史、トルコとは何か（藤原書店)、査読無、2008 年 5 月、2008、164-173

〔図書〕(計　15　件)
① 長田浩彰、広島大学出版会、われらユダヤ系ドイツ人―マイノリティから見たドイツ現代史 1893-1951、2011、512
② 三沢伸生(監修)、日本トルコ文化協会、絆―トルコと日本の 120 年、2011、83
③ 臼杵陽（監修)、他、岩波書店、双方の視点から描く　パレスチナ/イスラエル紛争史、2011、288
④ 臼杵陽、青土社、大川周明―イスラームと天皇のはざまで、2010、338
⑤ 田嶋信雄、工藤章、Erich Pauer、Global Oriental(London)、Japan and Germany. Two Latecomers to the World Stage 1890-1945、2010、561
⑥ 臼杵陽、岩波書店、イスラエル、2009、238
⑦ 臼杵陽、青土社、イスラームはなぜ敵とされたのか―憎悪の系譜額、2009、297
⑧ 臼杵陽（監修)、赤尾光春、早尾貴紀、明石書店、ディアスポラから世界を読む―離散を架橋とするために、2009、464
⑨ 臼杵陽、市川裕、他、岩波書店、ユダヤ人と国民国家―「政教分離」を再考する、2009、354
⑩ 石田憲、岩波書店、敗戦から憲法へ、2009、314
⑪ 長澤栄治、Merit Publishing House（Egypt）、Modern Egypt through Japanese Eyes, A Study on Intellectual and Socio-economic Aspects of Egyptian Nationalism、2009、410
⑫ 店田廣文、早稲田大学人間科学学術院、日本のモスク調査２－イスラーム礼拝施設の調査記録、2009、49
⑬ 三沢伸生、東洋大学アジア文化研究所、日土協会『日土協會會報』(CD-ROM 版, Ver.1)、2009、32+CDROM1 枚
⑭ 三沢伸生、東洋大学アジア文化研究所、東洋倶楽部『東洋』(CD-ROM 版, Ver.1)、2009
⑮ 臼杵陽、社団法人國民會館、イスラム世界の現状と将来、2008、54

〔その他〕
「大川周明とイスラム」
http://wakame.econ.hit-u.ac.jp/~areastd/okawa/

６．研究組織
(1)研究代表者
臼杵　陽（USUKI　AKIRA）
日本女子大学・文学部史学科・教授
研究者番号：40203525

(2)研究分担者
石田　憲（ISHIDA KEN）
千葉大学・大学院人文社会学研究科・教授
研究者番号：40211726

加藤　博（KATOH HIROSHI）
一橋大学・経済学研究所・教授
研究者番号：10134636

小林　寧子(KOBAYASHI YASUKO)
南山大学・外国語学部・教授
研究者番号：60225547

田嶋　信雄（TAJIMA NOBUO）
成城大学・法学部・教授
研究者番号：80179697

店田　廣文（TANADA HIROFUMI）
早稲田大学・人間科学学術院・教授
研究者番号：20197502

中生　勝美（NAKAO KATSUMI）
桜美林大学・人文学系・教授
研究者番号：00222159

長澤　栄治（NAGASAWA EIJI）
東京大学・東洋文化研究所・教授
研究者番号：00272493

長田　浩彰（NAGATA HIROAKI）
広島大学・総合科学研究科・教授
研究者番号：40228028

深澤　安博（FUKAZAWA YASUHIRO）
茨城大学・人文学部・教授
研究者番号：60136893

三沢　伸生（MISAWA NOBUO）
東洋大学・社会学部・准教授
研究者番号：80328640